



3つの「C」

昨日の入学式では、来賓祝辞ということで如蘭会会長小島順彦（こじまよりひこ）さんのお話があった。Wiki で検索してみると、

東京都世田谷区に生まれる。東京学芸大学附属小学校・中学校、東京都立日比谷高等学校を経て、1960年（昭和35年）、慶應義塾大学経済学部に入學した。翌年、東京大学教養学部理科Ⅰ類に転じ、工学部産業機械工学科を卒業した。三菱商事15代目社長を経て、三菱商事会長となる。日本経済団体連合会副会長。

「海外で仕事がしたい」との希望から商社に就職し、三菱商事社員としての人生を歩んだ。同社では製鉄所関連などの業務に長く携わるとともに、複数の海外勤務も経験している。英語は得意ではないと自認するが、

「英語力と頭のよさは無関係」

「下手な英語でも、自分の意見をしっかり言う」

として、日本の若者には海外での活躍を推奨するとともに、自らも国際社会における積極的な活動を続けている。2010年（平成22年）1月、スイスで開催された世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）において共同議長を務めた。同会議での共同議長は小島を含めた6人であり、ほかはネスレCEOのポール・ブルケやデュポンCEOのエレン・クルマン、ICI銀行CEOのチャンド・コッチャルら。と出てくる。工業立国・貿易立国の日本の屋台骨を支えてきた人物であることが分かる。

その小島さん、「私は三菱商事の新入社員に向かってこんな話をしています」と、超一流企業の新入社員が聞く話を、後輩の新生諸君にして下さった。さすが日比谷といった

ところか。

さて、その話の内容はというと「3つの「C」を大切にしてほしい」というものだったが、3つの「C」、想像がつくだろうか？私の意見も付け加えながら紹介してみよう。

一つ目は「curiosity」（ちなみ小島さんの発音は「？」であったが…笑）。変化や技術革新の激しい現代、色々なことに好奇心をもって視野を広めることが求められるということだろう。新入生に対しては、幅広く学習しようというメッセージだと思うが、私が3年生向けに具体化すれば、「新聞を読もう」「テレビニュースを見よう」ということになる。

二つ目は「challenge」。内向きと言われる最近の若者に対して、グローバル時代を生き抜く上で積極的な挑戦を期待なさっているようだ。新入生に向けては、文武両道・自由闊達な日比谷において、色々なことに挑戦してほしいとおっしゃっていた。

三つ目は「communication」。小島氏は現代ではこれが一番大切で、ネット時代になった今だからこそ、実は「face to face」のコミュニケーションが求められているとおっしゃっていた。新入生に対しては、行事や部活、学習などさまざまな場面で友だちと議論を深めることで、自分の考えをまとめあげ、それを的確に主張する力を伸ばしてほしいと要望されていた。

*

一流企業の新入社員に求められる力は、これからの時代を生きる君たちに求められる力でもある。あと一年間の日比谷生活だが、この3つの「C」を意識して生活していこう。